



日本小児科学会主催

第 15 回 日本小児科学会倫理委員会 公開フォーラム

**すべての子ども達が生き生きと暮らせる社会の実現のために
～妊娠・出産・育児にわたる母子への包括的な支援における小児科医の役割～**



開 催 日 2025 年 3 月 22 日 (土) 13:00～16:00

開催方法 Zoom Webinars

講演のご質問は「所属」「名前」を入れて Q & A へご入力ください

はじめに

倫理委員会では、主に母体血を用いた非侵襲性出生前遺伝学的検査(NIPT)を取り上げ、妊娠・出産・育児にわたる包括的支援に際する小児科医の役割について考える場として、今回のフォーラムを企画いたしました。

NIPTに関しては、従来の対象疾患以外を対象とする臨床研究の計画も進み、2024年6月にこども家庭庁から研究に関する透明性確保のため、当学会も関与するスキームが作成されました。また2024年8月には、着床前検査、特に重篤な遺伝性疾患を対象とした着床前遺伝学的検査(PGT-M)に関して、今後PGT-Mに関する理解と議論を深めるためとして、これまでの症例審査結果が日本産科婦人科学会より公表されました。

着床前検査も出生前検査も、新しい局面に向かおうとする流れの中で、誰もが安心して子どもを産み、育てることができるために、何が求められているのか。子どもたちが、障害や疾患の有無にかかわらず、等しく基本的人権を享有するかけがえのない個人として尊重され共生する社会の実現のために、小児科医が果たすべき責務とは何か、多領域の専門家の演者の講演と討議を通して、考えを深める機会としたいと存じます。

日本小児科学会倫理委員会

プログラム

- 13:00～13:05 開会の挨拶 滝田 順子(日本小児科学会会長)
- 13:05～13:10 フォーラム開催趣旨の説明 笹月 桃子(日本小児科学会倫理委員会委員長)
- 13:10～14:50 第1部 着床前検査・出生前検査の現状～出生前からの切れ目ない支援に向けて
座長: 笹月 桃子(日本小児科学会倫理委員会委員長)
種市 尋宙(日本小児科学会倫理委員会副委員長)
- 13:10～13:30 NIPT及びPGT-Mの現状について
三浦 清徳(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 産婦人科学分野)
- 13:30～13:50 出生前検査の現状～NIPT等の出生前検査に関する専門委員会について
植田紀美子(関西大学 人間健康学部)
- 13:50～14:05 NIPTの検査精度について臨床検査の視点から考える」
松下 一之(千葉大学医学部附属病院 検査部・遺伝子診療部)
- 14:05～14:25 出生前コンサルト小児科医について
右田 王介(聖マリアンナ医科大学病院 遺伝診療部)
- 14:25～14:40 夫婦が安心して出産を迎えられるために
西川 智子(神奈川県立こども医療センター遺伝科 認定遺伝カウンセラー)
- 14:40～14:50 出生前検査に対する日本小児科学会の立場
笹月 桃子(早稲田大学 人間科学学術院)
- 14:50～15:05 休憩
- 15:05～15:55 第2部 総合討論・質疑応答
座長: 笹月 桃子(日本小児科学会倫理委員会委員長)
掛江 直子(日本小児科学会倫理委員会副委員長)
指定発言: 富永 牧子(昭和大学横浜市北部病院 臨床遺伝・ゲノム医療センター)
- 15:55～16:00 閉会の挨拶 三井 哲夫(日本小児科学会倫理委員会担当事務)

第 1 部

着床前検査・出生前検査の現状 ～出生前からの切れ目ない支援に向けて

13:10～14:50

座長

笹月 桃子

(日本小児科学会倫理委員会委員長)

種市 尋宙

(日本小児科学会倫理委員会副委員長)

NIPT 及び PGT-M の現状について

みうら きよのり
三浦 清徳

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 産婦人科学分野

日本産科婦人科学会は、「重篤な遺伝性疾患を対象とした着床前遺伝学的検査 (Preimplantation Genetic Testing-Monogenic:PGT-M)」に関する倫理審議会において、検査の適応、疾患の重篤性とその判断のあり方ならびに審査体制について議論し、2022 年 1 月に PGT-M に関する見解を改定した。見解改定後の審査体制は、PGT-M 審査小委員会と PGT-M 臨床倫理個別審査会とで構成されている。PGT-M 審査小委員会では「医学的見地を中心とした判断」、PGT-M 倫理審査個別審査会では「夫婦の個別的な生活・社会的背景に重きをおいた判断」について重点を置いた審査が行われ、2024 年 8 月に日本産科婦人科学会は審査結果を情報公開した。一方、Non-invasive prenatal testing (NIPT) については、「NIPT 等の出生前検査に関する専門委員会報告書」において、「幅広い関係者が参画する形で、NIPT 実施施設等の認証制度を新設すべきである」とされたのを受け、2021 年 11 月に出生前検査認証制度等運営委員会が日本医学会に設置され、2022 年 2 月には「NIPT 等の出生前検査に関する情報提供及び施設(医療機関・検査分析機関)認証の指針」が策定された。NIPT については、一般的な遺伝医療を担う連携施設と専門的な遺伝医療まで担う基幹施設とが日本小児科学会が認定する出生前コンサルト小児科医と連携して、地域の周産期医療体制の中で遺伝カウンセリングならびに検査を提供する体制が整備された。

本講演では、子宮内に着床する前の受精胚を検査する“PGT-M”ならびに妊娠成立後の胎児診断を目的とした“NIPT”の現状と課題について解説する。

三浦 清徳(みうら きよのり)

【所属】

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科産科婦人科学分野

【学歴および職歴】※西暦でご記入ください

1995 年 3 月 長崎大学医学部卒
1995 年 5 月 長崎大学医学部産科婦人科入局
1999 年 4 月 ハーバード大学医学部ポスドクフェロー(2 年 6 ヶ月)
2000 年 3 月 長崎大学大学院医学博士課程修了
2003 年 7 月 長崎大学病院産科婦人科助手
2006 年 4 月 長崎大学病院産科婦人科講師
2011 年 4 月 佐世保市立総合病院産婦人科医長
2012 年 4 月 長崎大学病院産科婦人科准教授
2019 年 4 月 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科産科婦人科学講座教授
2024 年 4 月 長崎大学病院副病院長(研究・教育担当) 兼任

【所属学会・委員会等】

日本医学会(出生前検査認証制度等運営委員会施設認証 WG 座長)、日本医師会(学術企画委員会委員)、日本産科婦人科学会(代議員、専門医・指導医、産婦人科診療ガイドライン産科編 2026 作成委員会委員長、重篤な遺伝性疾患を対象とした着床前遺伝学的検査(PGT-M)に関する審査小委員会委員長など)、日本周産期・新生児医学会(理事、周産期(母体・胎児)専門医・指導医、倫理委員会委員長など)、日本婦人科腫瘍学会(代議員、婦人科腫瘍専門医・指導医)、日本生殖医学会(理事、生殖医療専門医・指導医)、日本女性医学会(理事、認定女性ヘルスケア専門医・指導医)、日本人類遺伝学会(財務委員会担当理事など)・日本遺伝カウンセリング学会(臨床遺伝専門医・指導医)、日本超音波医学会(超音波専門医・指導医)、日本産科婦人科内視鏡学会(理事、技術認定医(腹腔鏡))、日本内視鏡外科学会(技術認定医(産科婦人科))、da Vinci プロクター取得、がん治療認定医機構がん治療認定医、日本性感染症学会(認定医)など

【賞 罰】

1. 2009 年 6 月 12 日 日本産婦人科新生児血液学会「真木賞(最優秀演題賞)」
2. 2010 年 10 月 1 日 第 18 回 日本胎盤学会学術集会「相馬賞(学術奨励賞)」
3. 2022 年 9 月 9 日 令和 4 年度産科医療功労者厚生労働大臣表彰

出生前検査の現状

～NIPT 等の出生前検査に関する専門委員会について～

うえだ きみこ
植田紀美子

関西大学人間健康学部

出生前検査は、侵襲的な方法から、より侵襲を伴わない方法によって胎児の詳細な遺伝学的情報を得ようと発達している。この科学技術の発達のスピードが、社会の理解や受容の水準をはるかに超える今、倫理的・社会的な影響が甚大である出生前検査は、“なぜ、何のために実施されるのか”、改めて慎重に、かつ開かれた議論がなされる必要があろう。

2008 年に NIPT が論文報告されてから、2013 年 3 月に日本産科婦人科学会は「母体血を用いた新しい出生前遺伝学的検査に関する指針」を策定し、同年 4 月から日本医学会による認定施設において、臨床研究としての NIPT が開始された。非認定施設の増加等を背景に 2020 年 10 月、厚生科学審議会科学技術部会に「NIPT 等の出生前検査に関する専門委員会」が設置され、翌年 5 月、新たな認証制度と妊婦やパートナーへの情報提供の必要性等を提唱する報告書が作成された。これを受け 6 月に日本医学会に出生前検査認証制度等運営委員会が設置され、2022 年 7 月より認証制度が開始された。さらに、2024 年 3 月には専門委員会から「NIPT の臨床研究における課題と対応（見解）」が発出され、認証制度で許容された疾病を超え、対象疾患を拡大した NIPT の臨床研究が立案され始めている。

このような NIPT 実施の状況に「滑りやすい坂」の懸念の顕在化は誰もが望まない。昨年 7 月、最高裁判所大法廷は、旧優生保護法は憲法違反とする初めての判断を示した。人間の生命に対する線引きはだれがどのようにできようか。妊婦・パートナーの意思決定が社会的背景に影響されず、真に自律的意思決定であるために、子どもの成長や暮らしを熟知する小児科医がその意思決定の場に関わる役割は大きい。専門委員会等の議論の経緯を紹介し、フォーラム参加者皆様の思索・意見交換に資したい。

植田紀美子(うえだ きみこ)

【所属】

関西大学人間健康学部人間健康研究科・関西大学大学院人間健康研究科

【職歴】

1996 年自治医科大学卒業、2001 年米国ハーバード大学公衆衛生大学院修士課程(MPH)修了、2003 年自治医科大学博士(医学)取得。大阪急性期・総合医療センター小児科、大阪府、厚生労働省、米国ハーバード大学公衆衛生大学院研究員(日本学術振興会海外特別研究員)、大阪母子医療センター(母子保健調査室長・臨床研究支援室長・遺伝診療科副部長)をへて、2021 年 4 月より現職。障がいのある子どもやその家族を対象とした臨床・研究を行う。大阪母子医療センター遺伝診療科非常勤医師。

【主な所属学会・委員会等】

日本小児科学会 倫理委員会、日本公衆衛生学会 編集委員会 代議員、日本小児保健協会 代議員、日本人類遺伝学会、日本疫学会、日本子ども虐待防止学会、NIPT 等の出生前検査に関する専門委員会、日本医学会出生前検査認証制度等運営委員会情報提供ワーキンググループ 等

【主な取扱業務分野】

小児臨床遺伝学、障害者福祉論、公衆衛生学、疫学、母子保健学

NIPT の検査精度について臨床検査の視点から考える

まつした かずゆき
松下 一之

千葉大学医学部病院検査部・臨床検査科
(兼)遺伝子診療部/がんゲノムセンター/超音波センター

(背景・目的):本講演では、NIPT の検査精度について臨床検査の視点から考察する。NIPT は NGS を用いた高度な臨床検査である。診療の用に供する検査(臨床検査:疾患の診断や治療に用いる)では次の4つの「ACCE」を満たす必要がある。NIPT では特に A: Analytic Validity に関する具体的な実施方法(内部精度管理:IQC、外部精度管理調査:EQA)や第三者認定のしくみが未確立(発展途上)であることが課題である。

A: Analytic Validity, 分析的妥当性:検査法が確立し、再現性の高い結果が得られる精度管理が適切。

C: Clinical Validity, 臨床的妥当性:検査結果の意味付けが明確。感度、特異度、陽性的中率などが明らか。

C: Clinical Utility, 臨床的有用性:臨床上のメリットがある。

E: Ethical Legal and Social Issues, 倫理的法的社会的問題:就職、結婚、保険加入等病気のこと以外で差別受けることがないかどうかの倫理的法的社会的問題。

(本講演の概要):「NIPT の臨床研究における課題と対応(見解)」NIPT 等の出生前検査に関する専門委員会(こども家庭審議会科学技術部会。令和6(2024)年3月)では、NIPT 検査の分析的妥当性(A)や臨床的妥当性(C)が確立していない中で実施されているという調査結果が報告されている。検査の実施体制について、1) NIPT の臨床研究を実施する際においても、データの再現性等の基本的な分析性能を含む精度管理を確実に行う必要があること、2) NIPT は非確定的検査であることから、当該疾患に対する確定的検査も併せて実施できることが求められ、確定的検査の検査精度の確保も必要である、と記載されている。

(まとめ): NIPT については、検査精度の具体的な実施方法の構築が課題である。NIPT の臨床検査としての IQC、EQA、第三者認定の国内での実施体制の整備と構築を行うことが必要である。

松下 一之(まつした かずゆき)

【所属】

千葉大学医学部病院 検査部・臨床検査科
(兼)遺伝子診療部/がんゲノムセンター/超音波センター

【職歴】

1988 年 3 月 千葉大学医学部卒業
1995 年 3 月 千葉大学大学院医学研究科博士課程(外科系)修了
1997 年 6 月 客員研究員(米国国立がんセンター(NCI)) (2000 年 3 月 30 日まで)
2008 年 4 月 千葉大学助教医学部附属病院 (検査部・遺伝子診療部兼務)
2019 年 4 月 千葉大学医学部附属病院 がんゲノムセンター兼務
2022 年 4 月 千葉大学医学部附属病院 臨床検査科(検査部)標榜 2025 年 2 月現在まで。

【所属学会・委員会等】

日本臨床検査医学会理事・評議員(臨床検査点数委員会委員長、遺伝子委員会担当理事、臨床検査室医療評価委員会委員)、日本臨床検査専門医会選挙理事(保険点数委員会委員長)全国幹事(2016-2019)、日本医療検査科学会評議員(遺伝子プロテオミクス委員会、医療情報委員会アドバイザー)、日本臨床検査医学会関東・甲信越支部幹事、臨床検査振興協議会(診療報酬改定小委員会委員、診療報酬制度小委員会委員、遺伝子小委員会委員)、日本遺伝子診療学会理事、他。

【主な取扱業務分野】

臨床検査、臨床遺伝、ゲノム医療、遺伝子関連検査の精度管理

【出版物】

1. Matsushita K, Ishige T, Watanabe K, Akahane T, Tanimoto A, Yoshimoto M, Yamakuchi M, Hashiguchi T, Okugawa Y, Ikejiri M, Yamaguchi T, Yamasaki T, Takeda M, Hibi M, Akiyama N, Shimizu K, Hashimoto N, Sato H, Tanaka Y, Amari F; EQA working group of Japan Association for Clinical Laboratory Science (JACLS). Importance of EQA/PT for the detection of genetic variants in comprehensive cancer genome testing. Sci Rep. 2025 Jan 7;15(1):1036. doi: 10.1038/s41598-024-84714-4. PMID: 39762492; PMCID: PMC11704004.
2. Maekawa M, Taniguchi T, Nishio K, Sakai K, Matsushita K, Nakatani K, Ishige T, Ikejiri M, Nishihara H, Sunami K, Yatabe Y, Hatanaka KC, Hatanaka Y, Yamamoto Y, Fukuyama K, Oda S, Saito K, Yokomura M, Kubo Y, Sato H, Tanaka Y, Fuchioka M, Yamasaki T, Matsuda K, Kurachi K, Funai K, Baba S, Iwaizumi M. Precision cancer genome testing needs proficiency testing involving all stakeholders. Sci Rep. 2022 Jan 27;12(1):1494. doi: 10.1038/s41598-022-05589-x. PMID: 35087199; PMCID: PMC8795413.

出生前コンサルト小児科医について

みぎた おおすけ
右田 王介

聖マリアンナ医科大学病院 遺伝診療部

遺伝解析技術の進展から遺伝学的検査は病める患者の診断や治療だけでなく、個人の特性や未発症の疾患をも検討し、活用しうる時代となった。遺伝学的検査の結果は生涯変化せず、家族が共有する可能性があるなど通常の検査情報とは異なる特性がある。検査の実施においては、これら特性を受検する本人が理解しその同意のもとで実施されることが期待されるものの、小児や胎児、そして胚への検査では本人が意思表示し実施決定を行うことは困難である。こうした状況にある出生前検査には多領域、多職種連携と支援が確保されるべきであり、その一環として母子の健康と医療へ小児科医の必要なサポート機会への対応が模索されてきた。「出生前コンサルト小児科医制度」は、小児科医が妊娠中の夫婦、とくに妊婦の不安に精通し、児の出生後にも対応が可能なことを理念として掲げ、NIPTをはじめとする出生前検査へ、検査を受けるべきかどうか悩む妊婦や検査を受けた妊婦の相談を受け、対応を行う小児科専門医を認定し、たとえ産婦人科医を介さずとも直接の対応しうる窓口として機能することを目指している。現在の本制度の状況について考察する。

右田 王介(みぎた おおすけ)

【所属】

聖マリアンナ医科大学 臨床検査医学・遺伝解析学

聖マリアンナ医科大学病院 小児科／遺伝診療部／臨床検査センター

【職歴】

1999 年筑波大学医学専門学群卒業、2005 年同大学大学院博士課程修了

筑波大学大学院、国立成育医療センター遺伝診療科にて分子生物学および臨床遺伝についてトレーニングをうけ、2009-2012 年にはトロントの the Hospital for Sick Children にて遺伝学の研究に従事し、2012 年より成育医療研究センター研究員、2014 年より聖マリアンナ医科大学小児科講師、2021 年から筑波大学小児科准教授、2022 年より聖マリアンナ医科大学臨床検査医学教授として現在に至る。

【所属学会・委員会等】

日本小児科学会：倫理委員会委員、遺伝学的検査検討小委員会委員長

日本人類遺伝学会：評議員、広報医委員会委員

日本臨床検査医学会、日本遺伝カウンセリング学会、日本産科婦人科学会、日本先天代謝異常学会、日本マス・スクリーニング学会、周産期新生児学会、神奈川遺伝カウンセリング研究会

【主な取扱業務分野】

小児科学、臨床検査、臨床遺伝学

夫婦が安心して出産を迎えられるために

にしかわ ともこ
西川 智子

神奈川県立こども医療センター 遺伝科

本来、妊娠・出産は喜ばしく待ち望まれるものである。一方、先天性疾患の出生率はかわらない状況にあるが、女性の活躍の場が広がったことによる高齢妊娠の増加、SNS の普及などにより、先天性疾患や障害児養育情報が入手しやすい社会的背景がある。SNS 上の情報は正しい情報もあるが入手する側が取捨選択する必要がある。障害児養育についての情報により、女性や妊婦さんご家族が不安になる場面が散見される。加えて、NIPT が容易に受け入れられるようになっており、NIPT を「安心のために受ける検査」と話す妊婦さんも少なくない。出生前検査で胎児がなんらかの疾患を有していることが判明した場合、安心のために受けた検査で予想に反する結果に戸惑い、時間的猶予が限られている中で、胎児の命に関わる重要な決断を行うことになる。障害のあるこどもを養育することの不安と授かった命の重さの相対する課題に直面することになる。また、母親と父親、その関係者では、胎児に対する思いに差を認める場合も少なくない。認定遺伝カウンセラーは、出生前検査結果から推定される胎児の情報をどの時期に、どの範囲まで知りたいのか、確定的検査にすすむのかを決定する段階から関わっている。妊娠前と異なり、胎児の遺伝情報が決まっている状態で、どう決断するのかをご家族と悩みながら関わっている。家族の自律的意思決定をどう支援していくのかを話し合いたい。

西川 智子(にしかわ ともしこ)

【所属】

神奈川県立こども医療センター 遺伝科

【職歴】

1988年4月：北里大学病院

1992年4月：神奈川県立こども医療センター

【所属学会・委員会等】

日本遺伝カウンセリング学会

日本人類遺伝学会

日本小児遺伝学会

【主な取扱業務分野】

遺伝カウンセリング：小児・周産期領域

出生前検査に対する日本小児科学会の立場

ささづき ももこ
笹月 桃子

早稲田大学 人間科学学術院
九州大学大学院医学研究院 成長発達医学分野

日本小児科学会は、NIPT の臨床研究が開始されることに伴い、こども家庭庁の審議会が示した「NIPT の臨床研究における課題と対応（見解）」も踏まえ、2024 年 11 月に「母体血を用いた非侵襲性出生前遺伝学的検査（NIPT）の臨床研究に関する日本小児科学会の基本姿勢 2024」を表明した。2019 年および 2020 年に本学会が示してきた姿勢を踏襲し、その上で、現在実施されている認証下の NIPT の問題を示しつつ、これらが解決されないまま、今後、対象を拡大することを想定した NIPT の臨床研究の実施をめぐる予想される倫理的・社会的な課題について整理し、問題提起をした。そして本学会の目指す方向性として、妊婦・パートナーへの個別の支援体制の拡充と、NIPT の臨床研究が社会全体に及ぼす影響をも考慮した慎重な検討を重要視し、臨床研究の申請に対しては厳正な態度で臨むことを明記した。本発表においては、この骨子と論点及び、妊婦の自律尊重や意思決定支援のあり方なども含めた、その背景となる考え方について説明する。

笹月 桃子(ささづき ももこ)

【所属】

早稲田大学 人間科学学術院

【職歴】

1994 年- 熊本大学医学部卒業、同年 九州大学小児科入局、以後関連病院に勤務

2004-2006 年 米国 Lucile Packard Children's Hospital at Stanford, Pain management and palliative care team

2006 年- 国立病院機構 福岡東医療センター小児科 勤務(2009 年- 同小児科医長)

2013 年- 九州大学大学院入学／九州大学病院小児科(小児神経科)勤務

2015 年- 同病院小児緩和ケアチーム設立、以降、現在に至るまで活動を継続中

2017 年- 西南女学院大学保健福祉学部 准教授(2021 年- 同教授)

2024 年- 早稲田大学人間科学学術院 教授

- 九州大学大学院医学研究院 成長発達医学分野 共同研究員

- 福岡市立こども病院、久山療育園重症児者医療療育センター 非常勤医師
現在に至る

【資格】

日本小児科学会:専門医

日本臨床倫理学会:上級倫理認定士

【主な所属学会・委員会等】

日本小児科学会:倫理委員会委員(2024 年- 同委員長)

日本生命倫理学会:理事、評議員

日本臨床倫理学会:評議員、上級委員会委員、小児倫理 WG 委員

日本緩和医療学会:将来構想委員会小児緩和ケア WPG 員

日本学術会議:特任連携会員(臨床医学委員会・健康・生活科学委員会合同出生・発達分科会)

九州学校保健学会:評議員

日本小児神経学会、日本重症心身障害学会、日本小児血液がん学会、日本医学哲学倫理学会

【主な取扱業務分野】

小児神経学

小児緩和医療学

小児の臨床倫理・生命倫理学

【座長】

種市 尋宙(たねいち・ひろみち)

【所属】

富山大学学術研究部医学系小児科学 講師

【職歴】

1998 年 富山医科薬科大学医学部卒業

1998 年 富山医科薬科大学小児科学教室入局

その後、富山県立中央病院 小児科、糸魚川総合病院 小児科などで勤務

2007 年 富山大学医学部大学院博士課程修了

2008 年 国立病院機構 災害医療センター 救命救急科

2009 年 富山大学小児科助教

2019 年 富山大学小児科講師

現在に至る

【資格】

小児科専門医・認定小児科指導医

集中治療専門医

地域総合小児医療認定医

高岡市医療政策監

日本 DMAT 隊員、JPLS 講師、PALS インストラクター

【主な所属学会・委員会等】

○日本小児科学会

倫理委員会、小児医療提供体制委員会、JPLS 委員会、小児救急・集中治療委員会、
成育基本法推進委員会

○日本小児救急医学会

理事、代議員、SI メンバー、調査研究委員会、将来検討委員会、脳死問題検討委員会

【主な取扱業務分野】

小児救急・集中治療

【受賞歴】

令和6年度消費者支援功労者表彰(内閣府特命担当大臣表彰)

掛江 直子(かけえ・なおこ)

【所属】

国立成育医療研究センター生命倫理研究室

【職歴】

1997 年～早稲田大学人間総合研究センター助手(バイオエシックス PJ)

国立小児病院 血液腫瘍科 研究員

2001 年～国立精神・神経センター 精神保健研究所 流動研究員

2002 年～国立成育医療センター 研究所 共同研究員

2003 年～国立成育医療センター 研究所 成育政策科学研究部 成育保健政策科学
研究室長

2009 年～2010 年

米国 Georgetown University, Center for Clinical Bioethics, Visiting Fellow

2014 年～国立成育医療研究センター 研究所 社会・臨床研究センター 生命倫理室長
(組織変更)

2015 年～国立成育医療研究センター 臨床研究開発センター
生命倫理研究室長・研究所

小児慢性特定疾病情報室長(併任)(組織変更)

2018 年～国立成育医療研究センター 生命倫理研究室長 現在に至る

【主な所属学会・委員会等】

日本小児科学会 倫理委員会、移行支援委員会、自律的意思決定が困難な患者の成人移行支援のあり方を検討する WG、民法改正に伴う父母の離婚後の共同親権導入への対策検討 WG

日本生命倫理学会

日本医事法学会

【主な取扱業務分野】

生命倫理学(医療倫理、研究倫理)

小児医療政策、小児保健政策

【指定発言】

富永 牧子(とみなが まきこ)

【所属】

昭和大学横浜市北部病院 臨床遺伝・ゲノム医療センター／こどもセンター

【職歴】

2003 年 5 月 成田赤十字病院 小児科

2005 年 5 月 東京都立八王子小児病院 シニアレジデント

2007 年 4 月 昭和大学横浜市北部病院 こどもセンター

2010 年 4 月 神奈川県立こども医療センター 遺伝科 特別研究員

2011 年 4 月 神奈川県立こども医療センター 遺伝科 シニアレジデント

2013 年 4 月 昭和大学横浜市北部病院 こどもセンター

2020 年 4 月 昭和大学横浜市北部病院 臨床遺伝・ゲノム医療センター(兼任)

●千葉県こども病院 遺伝科 非常勤医師

●横浜医療福祉センター港南 遺伝科 非常勤医師

現在に至る

【資格】

日本小児科学会 小児科専門医・指導医

日本人類遺伝学会 臨床遺伝専門医・指導医

日本遺伝性腫瘍学会 遺伝性腫瘍専門医

【所属学会】

日本小児科学会、日本人類遺伝学会、日本遺伝カウンセリング学会、日本小児神経学会、日本新生児成育医学会、日本小児遺伝学会、日本産科婦人科遺伝診療学会、日本遺伝性腫瘍学会、日本ダウン症学会

【主な取扱業務分野】

小児科学、臨床遺伝学、遺伝カウンセリング学、先天異常学

[illegible]